

参加された方からのコメント

地域貢献というボランティア活動のイメージが強かったのですが、これって地域貢献活動なの？という程しみながら参加できました。地域の方のお人柄もあり、終始笑いの絶えない和やかな雰囲気でした。地域貢献をしている企業は数あれど、こうした取組を行う企業としてリードする大きな一歩を踏み出したのではないかと思います。



松本亜耶(神輝興産社員/入社4年目)

地元企業と地域住民のコミュニケーションの場としてとても有効な場と感じました。参加した防災の回では、日常生活では関心は低いものの誰もが常に意識しておかなければならない課題に対して、ゲーム形式で楽しく、しかも本音で話し合うことができ、企業や地域の方々の動機付けと課題の洗い出しにとってもよい手段だと感じました。



井筒均

主催者からのコメント

『地元は地元で守る』。人手不足かつ財政難。そのなかでシンプルに地域の人同士が助け合い、インフラだけでなく衣食住の安全と笑顔を守れるようにしたい。災害がおこった時には地域のお役に立てる企業になりたい。そのためには弊社の仲間を巻き込んで、仕事以外にもいろんな事に挑戦し、短期的なビジネスモデルだけでなく地域が企業を、企業が地域を通じて元気になる仕組みをつくり、地域と共に循環し持続可能な形を産み出す一端になれると捉えています。コラボサロンにより定期的に地域の方と関われる事によりスタッフみんなの成長を感じる機会になりました。



尾花弘教(神輝興産代表取締役)

「地域住民の方と社員さんが一緒に地域課題について考えたり、議論したりするような場があればうれしいですね」とご相談したのが1年半前。尾花社長は「いいですね、やりましょう！」と二つ返事で快諾してくださいました。神輝興産は①場の提供、②社員の参加、③資金面のサポートを、生きがい活動ステーションは①企画、②地域住民への呼びかけ、③当日のファシリテーションを担い、それぞれの強みを活かしながら進めてきました。同じ地域であっても「働く人」と「暮らす人」が交流したり議論したりする機会はそう多くはありません。今回のコラボサロンを通じて、双方に顔の見える関係性が構築できたことを何よりもうれしく思っています。



飛田敦子(生きがい活動ステーション マネージャー)

● アンケート分析より ●

地域の人たちにとって、企業コラボサロンは、その会社の存在を知り、そこで働く社員との交流という新たなつながりをもたらします。では、企業や働く社員にとっては、どのような意義があるのでしょうか。普段、社員は仕事で忙しいため、専門スキルは向上しますが、地域社会の状況や地域課題の理解については、関心が徐々に薄れていきます。つまり、普段社員が関わる地域社会という外部環境がどのような状況なのか、アンテナが鈍ってくるわけです。このアンテナの鈍りを解決し、関心が薄れてくる地域課題や地域住民とのつながりを再構築する手法が企業コラボサロンに他なりません。

経営学の父とも呼ばれるP.Fドラッカーは、①新たな顧客価値を創造すること、②働く職員に成果をあげさせること、③社会貢献することの3つの要因を経営ととらえ、これらを成し遂げることが経営者の役割と考えました。企業コラボサロンは、地域社会への貢献という効果だけでなく、働く社員のアンテナを磨き、彼らに成果をあげさせ、その結果、新たな製品やサービスという顧客価値の創造の可能性を高めると私は考えています。また、社員は家族との会話も増え、地域について考えるという効果も生み出しています。



當間克雄

兵庫県立大学政策科学研究所NPO研究連携センター

(有)神輝興産について

老朽化した構造物(橋やトンネル)の点検・調査・診断を行っている会社です。神輝興産の由来は『神戸で輝く』であり、地域とのつながりを大切にしています。年齢も性別も関係なく“食”を通じて交流し、人をつなぐ場所を作りたいと考え、会社の倉庫を改装し『おせっカフェ』という居場所の運営もしています。

本社 〒657-0027 神戸市灘区永手町1-4-16アルパー六甲2階
Tel.078-200-6724 Fax.078-200-6824
Web:https://www.shinki-ktr.co.jp/
おせっカフェ 〒657-0027 神戸市灘区永手町2-1-194
Tel.078-940-2048(ランチ予約)



業務の様子



おせっカフェ

生きがい活動ステーションについて

“地域の中で「生きがい」と「役割」を見つけませんか？”を合言葉に、公益財団法人神戸いきいき勤労財団と認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸が協働で運営しています。2014年6月に神戸市立六甲道勤労市民センター内に開設されて以来、講座やサロンを積極的に開催し、これまでに多くの方が地域活動の担い手となっています。

〒657-0038 神戸市灘区深田町4-1-39 メイン六甲4階
神戸市立六甲道勤労市民センター内
Tel.078-857-3022 Fax.078-857-3023 ✉ ikigai@cskobe.com
https://www.facebook.com/ikigairokko
開館時間 9:30~17:30(木・日・祝はお休み)



サロンの様子



居場所講座

2018年度 神輝興産×生きがい活動ステーション

企業コラボサロン報告書



近 隣で地域密着型の事業や活動を行っているリーダーをゲストとして迎え、地元企業と地域の住民が地域の課題についてともに学び、交流を行う「企業コラボサロン」。

神 戸・灘に拠点をもち、主に橋梁検査を行う(有)神輝興産と生きがい活動ステーションが協働し、社員さんと地域住民がともに地域課題について考え、交流する場

として実施しました。

世 代や背景の異なるメンバーが集うことにより、新たな発見が生まれたりお互いのことをより知ることができたりする機会となりました。さらに、地元密着の会社としての活動を深めていくきっかけにもなりました。

主催：有限会社神輝興産
共催：生きがい活動ステーション
(公益財団法人神戸いきいき勤労財団/認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸)
協力：兵庫県立大学政策科学研究所NPO研究連携センター

2018年度企業コラボサロン実施報告

2018年度は、神輝興産の社員の方の関心や話題性のあるテーマを取り上げて開催しました。社員さん向けのミニトークでは、NPOやCS神戸の活動についてお伝えし、神輝興産の会社説明や社会貢献活動についても地域の方にお伝えいただきました。各回ともに社員と地域住民が10名程度ずつ参加しました。

第1回 「わたしたちにできることは？」 —食品ロスについて考える—

6/12(火) ゲスト：浅葉めぐみさん(認定NPO法人フードバンク関西理事長)

第1回のテーマは食品ロス。企業から寄贈された食品を支援を必要とする人たちを支える団体に無償で配布する活動をされている認定NPO法人フードバンク関西の浅葉めぐみさんをゲストにお迎えして開催しました。日本で年間に廃棄されている食品は650万トン近くあり、世界全体の食糧援助量320万トンをはるかに超える量です。食品ロスが起こる原因から、フードバンク関西の取り組みを中心にお伝えいただきました。ワークショップでは「食品ロスを減らすには?」「フードバンク関西さんの活動にもっと寄付が集まるようにするには?」をテーマにグループワークを行い、世代や立場を超えて意見交換するなかで、自分たちの生活や身近な暮らしのなかでできることを考える機会となりました。



第2回 「あなたなら、どうする？」 —防災ゲーム「クロスロード」体験！—

9/19(水) ゲスト：高橋実芳子さん(神戸クロスロード研究会)

第2回のテーマは防災。神戸クロスロード研究会の高橋実芳子さんをゲストに迎え、阪神・淡路大震災の経験をもとに開発された防災ゲーム「クロスロード」を体験しました。災害が起こったときに、自分だったらどんな行動をとるか。ゲームを通してお互いの意見を語り合い、知識を深めていく機会となりました。震災当時のことを地域の方が社員の方に話されたり、お互いの意見の違いを新鮮に受け止めたりする場面もあり、自分自身を振り返り災害への備えの意識を高めるきっかけとなりました。



第3回 子どもの貧困と、子ども食堂について考える

12/12(水) ゲスト：片岡一樹さん(NPO法人プレーンヒューマニティー事務局長)

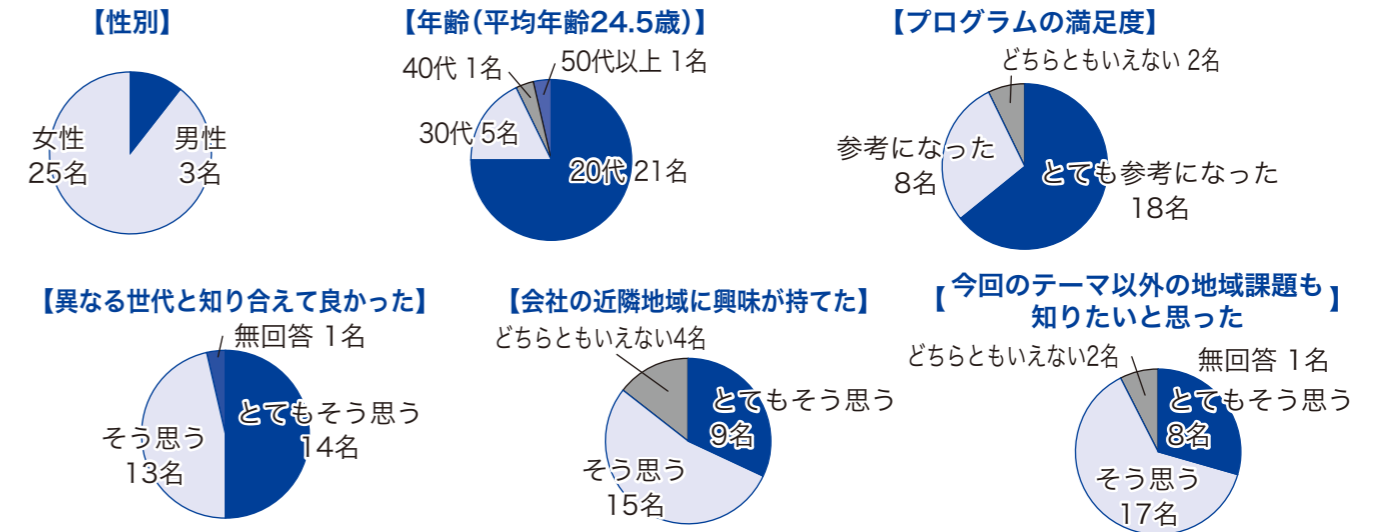
第3回のテーマは子どもの貧困。子どもに関わる支援を多方面で行う大学生中心のNPO法人プレーンヒューマニティーの片岡一樹さんをゲストにお迎えしました。現在、日本の子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあると言われています。子どもの貧困って何が問題なのか、話題の子ども食堂ってどんな食堂なのか、実践例を踏まえて解説いただきました。ワークショップではグループに分かれてディスカッション。「本当に困っている人にどのようにアプローチするのか?」などのテーマについて各グループから多様な意見が出てきました。



アンケート結果

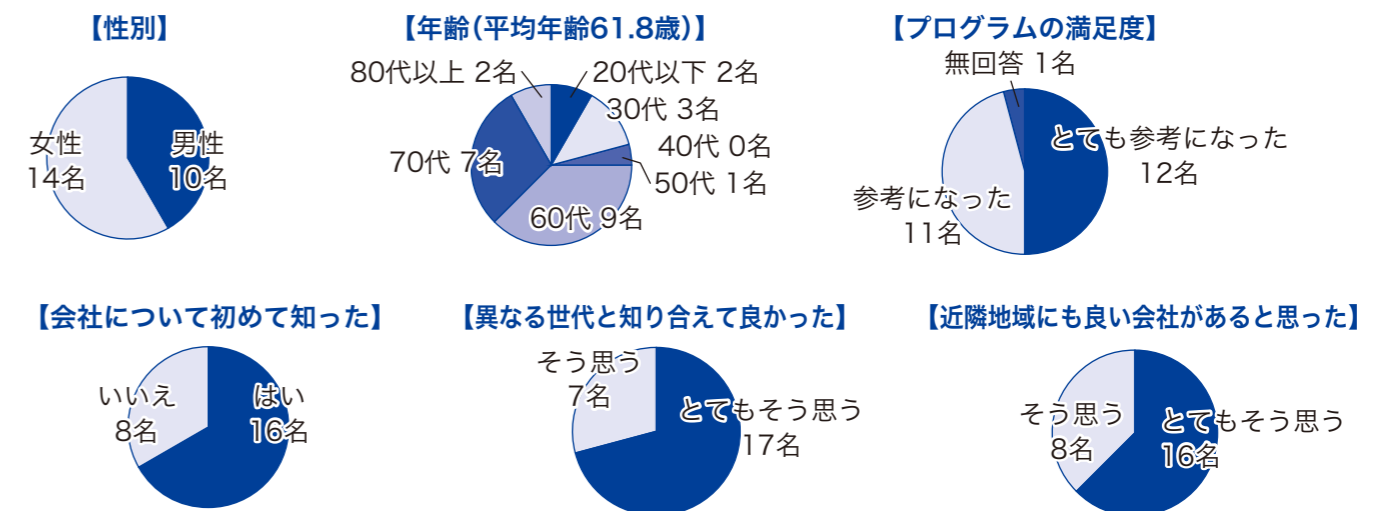
プログラムへの満足度と意義を明らかにするために、企業コラボサロンに参加された地域住民・社員の方それぞれにアンケートを実施しました。社員の方からのアンケートでは、これまで知らなかったことを知り、考え方や行動の変化につながったという意見が見られました。また地域の方からのアンケートでは、サロンを通じて会社のイメージアップになっていることが分かりました。

神輝興産社員 (のべ28名)



- 地域の問題を自分がいつか直面するかもしれないと身近に考えることが大事だと思いました。
- 家族で話し合ってみてみたいです。
- 地域の取り組みに積極的に参加しようと思いました。
- 自分で行動していきたいと思いました。
- 微力ながらお手伝いしてみたいと思いました。
- 寄付も機会があればやってみたいと思います。
- 初めて知ることが多くて学びになりました。
- 学んだことを覚えつつ、考えていく機会を増やしたいと思います。

地域住民 (のべ24名)



- 地域と会社、特に若い社員さんとの交流が面白いし楽しい。ぜひとも継続拡大を祈ります。
- 特に神戸で若いメンバーが活躍されている企業があることに感動しました。
- 地域貢献を実活動を通して実現されていることにも非常に感心しました。
- 意見交換で問題解決のヒントを見つけられました。
- 自分が実際に思っていること、他のみんなが実際に思っていることを話す場が大事だなと感じました。
- 社長の姿勢が素晴らしい。
- 神輝興産さんのようなコラボが今後もできれば楽しそうと思います。